

# 南の風 317

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

最近のミニバス（南部秋季大会予選）、中学（夏の県大会、関東大会）のゲームから感じたことです。

## 1 1on1 アタックにおけるスキルの在り方

ドライブからの1on1スキルですが、ボールを動かして（ボールハンドリングや種々のドリブルワーク）アタックし、ペイントを突くことが多くみられます。またユーロ、ギャロップ、フローターステップでシュートに持ち込むケースもあります。

現在、ミニバスや中学生の選手のボールハンドリングやドリブルワークのスキルは格段に進化し、ゲームの中でこうしたスキルを使って攻めることが当たり前になっています。ミニバスや中学時代に、1on1の引き出しが増えることはたいへん好ましいことです。ビハインドドリブル、レグスルー、ロールターンなどは、ハンドリングとしてボールを自在に扱う上では素晴らしいスキルです。また、ギャロップステップ、ユーロステップ、フローターショットも状況によって威力のあるスキルであることは間違いありません。また、練習したプレイをゲームでチャレンジすることも素晴らしいことです。

ただ注意してほしいことは、これらのスキルは「使いどころを誤るとボールを失うこと（ターンオーバー、バイオレーション、ファウル）につながる」ということです。

私が観戦したゲームの中でも、ディフェンスのいる前で止まりながら、無理やりビハインドドリブルをしてボールをカットされたり、ドライブでペイントに進入する時、スペースがあり十分ペイントにドライブできるのにフローターでショットしてリバウンドから速攻に持ち込まれたり、3線のディフェンスが待ち構えていてスペースのないところに、ギャロップステップで突っ込みバイオレーションになったりするケースがありました。

私が提案したいことは、ドリブルワークや各種のステップからのショットを練習する時には、早い段階から『SDDL』を念頭に置いてやってもらいたいということです。ご存じのように、SDDLはディフェンスの段階（Sはシャドー、Dはダミー、Dはディシジョンメイク、Lはライブ）を示すものです。スキルの定着段階に合わせて、ディフェンスの付き方を変えて練習すると効果があります。ディフェンスを付けて取り組むことで、選手は常に状況判断してプレイする力を培うことができるようになります。

もちろん新しいドリブルワークやステップを練習する時や初心者には、ノーディフェンスです。特にミニバスの場合は学年や経験年数も考慮し、選手一人ひとりのレベルにあった練習場面を提供することが必要ですが、できれば早い段階からディフェンスをつけことをお奨めします。

バスケットボールは『カオス』の競技です。フラクタル（実戦に即した状態を切り取った形）な状況で練習した方が効率的ですし、スキルやプレイの定着度が早まります。

繰り返しますが、練習したスキルやプレイは状況に応じて使い分けられることが重要になります。実戦の場面で使い分けられて、はじめてできたことになります。次号に続きます。